

保育表現技術としての弾き歌い集団演習の試み

The collective lesson that playing piano and singing as expression skill for childcare

林 麻由美 (東京福祉大学短期大学部)

Mayumi HAYASHI(Tokyo University of Social Welfare Junior College)

(キーワード)

弾き歌い、ピアノ、アンサンブル、集団演習

保育者養成校での音楽指導は、限られた時間内に保育現場で必要なピアノ演奏技術や、子どもの歌の弾き歌い技術を効率良く行わなければならない。そして保育現場で保育者は、どのように子ども達の音楽表現を支えるべきであるか、という点を学生に伝えていかなくてはならないと考える。教員は、その方法を具体的に明確に指示することが必要である。

弾き歌いは、たとえピアノの経験が豊かな学生であっても、養成校で学習する新しい学びの一つとして、初心者同様の気持ちを持って取り組むべきであり、ピアノ独奏の延長ではなく、アンサンブルの視点から捉えることが大切であると考えている。これまで20年に渡り弾き歌いの個人指導を行ってきたが、ピアノ経験者は独奏スタイルでの演奏は慣れているが、アンサンブルの経験は乏しく、また歌詞に対しての意識が低いと思われる。そこで初心者にも経験者にも全く同じ練習方法を提示し、これまでは個人指導で練習過程を一つ一つ確認しながら段階的に曲を仕上げていた。

今年度より所属校が変わり、学生数19人の「保育表現技術演習」のクラス授業で、弾き歌いの集団演習を試みた。曲目は「アイアイ」である。学生に1人1台の電子ピアノが用意されているので、全員でのアンサンブルが可能である。

まずはこれまでのように弾き歌いの練習方法を次

のように提示した。①右手練習 ②左手練習 ③歌だけの練習 ④右手+歌 ⑤左手+歌 ⑥両手+歌、④⑤の演習が弾き歌いの土台になるところと考え、また④⑤においては躍動感ある曲目の場合は、具体的なメトロノームの数値を提示し、そのビートを聴きながら止まらないで最後まで弾けるようになるまで繰り返すように伝えた。右手担当、左手担当、歌担当というようにパートに分かれて演奏し、お互いを聴き合う演習を行うとともに、歌詞に対する意識をしっかりと持てるように、歌詞だけ書かれているプリントにコードを色分けして該当する部分をマルで囲み、それを見ながら演奏する⑦コード+歌の演習を行った。その後、④、⑤、⑦のパートに分けてアンサンブルを行なった。

このように一人で行う練習だけでなく、グループで聴き合いながら練習することで、アンサンブル力の向上、即ち他者、また他声部を聴きながら演奏する力が育ち、弾き歌いの力も向上すると考える。また、学生達が保育者としてピアノを演奏することが、子どもたちの音楽表現にどのような関わりを持つことになるのかを認識するきっかけになると考えた。